



みなみの風

あいさつ・つたえあい・チャレンジが自慢
～優しい言葉があふれる坂下南小学校～

授業参観(7月1日)、ありがとうございました!

保護者の皆様には、お忙しい中、来校いただきありがとうございました。授業参観では、1つ学年が上がり成長したお子様の様子をご覧いただけたことと思います。全体会・学年懇談会にも多くの保護者の皆様に参加していただき、学校・学年経営の方針や、夏休みの過ごし方等について確認することができました。子ども達のために、ご家庭と学校が手を携えて進んで参りたいと考えます。今後も、どうぞよろしくお願いいたします。



会津坂下町学校運営協議会の開催(7月4日)

本校を会場に、ばんげコミュニティースクールの第2回学校運営協議会が開催されました。委員の皆様には、3つの授業を参観していただきました。参観後、「子ども達がのびのびしていて楽しく学習していた。」「一人一人が理解できるよう工夫し、配慮がなされていた。」「一人一人のペースに合わせた進み方なので、子ども達が安心して学習に取り組んでいた。」などの感想をいただきました。

図書室では、理想とするメディアとの付き合い方についての熟議を行いました。

町の生活状況調査結果から、子ども達のメディアの長時間利用が課題とのことで、町運営協議会として、今後も、課題解決に向けた方策を話し合っていく予定です。【裏面もご覧ください】



夏休み直前特集 パート1(メディア編)

メディアと上手につき合う力を育てましょう！

～ 夏休みを前に、家庭のルールの再確認をお願いします ～

①『スマホ脳』（アンデシュ・ハンセン）

スマホと距離を置くためのアドバイスも書かれています。

＜スマートフォンの悪影響＞

- 睡眠障害（ブルーライト×脳の興奮で眠りの質が低下）
- 記憶力や集中力、学力の低下（スマホは使わなくても近くにあるだけで集中力が低下）
- 依存（ゲーム、SNS、WEBページ、メール等、脳の報酬中枢をあおる仕組みが多数）
- ・ スティーブ・ジョブズ（アップル創業者） → 子どもにiPadを使ってよい時間を厳しく制限。
- ・ ビル・ゲイツ（マイクロソフトの共同創業者） → 子どもが14歳になるまでスマホを持たせなかった。

②『ゲーム依存症は「精神疾患」…WHOが分類改訂』（R元5.25 読売新聞）

- 世界保健機関（WHO）年次総会の委員会で、オンラインゲームなどにのめり込み、生活や健康に深刻な影響が出た状態を「ゲーム障害」（ゲーム依存症）と呼び、精神疾患と位置付ける「国際疾病分類」を正式決定した。これにより、ゲーム依存症は、アルコールやギャンブルなどの依存症と同様に治療が必要な疾病となる。
- WHOの診断基準では、以下のような状態は依存症の可能性がある。
 - ・ ゲームの時間や頻度などをコントロールできない。
 - ・ 家庭、学校、職場など日常生活に大きな問題が生じても、ゲームにのめり込む。
 - ・ こうした行動が1年以上続く。

上の①は、世界的ベストセラーで、テレビ『世界一受けたい授業』でも取り上げられた本『スマホ脳』の内容の一部です。②は、読売新聞の記事です。これらは、楽しく便利な機器も、使い過ぎにより心身に悪影響を及ぼしかねないということ、私たちに教えてくれます。子ども達の健やかな成長のために、メディアを否定するのではなく、自分からスクリーンから離れるなどメディアと上手につき合う力を、学校・家庭・地域が一体となって育てていきたいと考えます。

そこで、ご家庭にぜひお願いしたいのが家庭でのルールづくりです。

- 使用時間など使い方の約束（ルール）を決めている。
- 約束（ルール）を守らせている。

約束をきちんと守ることは、「自制心」を育てることもつながります。これからの社会を生き抜く子ども達には、「やる気」「やり抜く力」「忍耐強さ」「根気」「すぐに立ち直る」「うまく対処する」などの「非認知能力」※ と呼ばれる力を育てることが大切だと言われています。こうした面からも、今後もご家庭で約束を決め、それを「しっかり守れる力」をつけ、「メディアと上手につき合える力」を育てていただければと思います。

※ 他にも「励まし合う」「協力する」「思いやる」などの力があり、「意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力」と言われています。